

■採択年度（タイプ・申請区分）※該当の口を■にしてください。／大学名

【【ASEAN 対象】 H23 (A-Ⅱ) H24 (Ⅰ) H24 (Ⅱ) 【AIMS】 H25／

京都大学

■プログラム名

「開かれた ASEAN+6」による日本再発見—SEND を核とした国際連携人材育成

—以下、シンガポールに特化した内容を主にご記載ください。—

■相手大学・機関（国名も記載ください）

シンガポール国立大学(シンガポール)

■主な活動内容（概要）

平成 25 年 4 月 シンガポール国立大学に学部生 1 名派遣(専門、SEND)、平成 25 年 7 月 シンガポール国立大学に派遣(専門、SEND)、平成 25 年 10 月 シンガポール国立大学に院生 1 名派遣(共同指導)、京都大学東南アジア研究所がシンガポール国立大等 9 機関と東南アジア研究コンソーシアム(SEASIA)を結成(部局間協定締結) 平成 25 年 11 月 シンガポール国立大学から院生 2 名受入(専門)、平成 26 年 1 月 シンガポール国立大学に院生 1 名派遣(共同指導)、シンガポール国立大学から 4 名受入(共同指導)、平成 26 年 2 月 シンガポール国立大学に院生 5 名・学部生 3 名派遣(専門、SEND)、シンガポール国立大学から 17 名受入(異文化)

■プログラムの現状・課題、成功事例

(単位互換、危機管理、寮・奨学金、その他プログラムをつくる上での障害等について、できるだけ具体的に記載ください)

現状・課題

シンガポール国立大学 (Yale-NUS College を含む) とは、人文社会系の全般的な学生交流もおこなっているが、特に哲学分野において、教員・学生の派遣・受入が非常に活発にすすめられている。学生が相手側大学院修士課程で取得した単位の認定につき、単位換算・成績評価のやりかたにつき、双方の哲学分野の教員による協議を経て合意に達し、26 年度から試行的に開始される。ただし、現状では大学間学生交流協定の人数枠を超えてしまうため、非正規生の身分による受入を相互に行っている段階であり、単位互換を本格的におこなうには今後の制度的な整備が必要である。また、受講のために来日する学生を受け入れるにあたっては、民間宿舍の借り上げや可能な範囲での JASSO 奨学金で対応しているが、より充実した手当てができるようになることが望まれる。

成功事例

本事業の取り組み開始後、哲学分野においては、特にアジア哲学に強い関心を有する教員・学生の交流が非常に活発にすすめられ、京都大学とシンガポール国立大学に台湾の三大学(国立清華大学・国立政治大学・国立陽明大学)を含めたトライアングルの関係が成立し、三地域それぞれの学生が移動して学ぶ状況になっている。派遣にあたっては、京都大学での英語による専門講義に参加し優秀な成績をおさめることが要件となっており、国際教育参加に向けた学生の積極性が著しく高まっている。